

第三部 人類新時代

東京・銀座。ビルの一隅で、若く熱く、議論を交わす三人の少壮者の姿があった。話はどうも大々い。たゞ、投資総額十億の宇宙基地を、国力だけで打ち上げるにはどうすればいいか。この日、会合は、この超巨大プロジェクトの可能性を多角的に研究する「日本マクロエンジニアリング学会」設立のための最後の準備会だった。設立は四月一日。

資金集めから

三人の若者の名は中川、一種、大教授。授中国経済史、長信人東大教授宇田工学、月尾、東京工業大学助教授(都市工学)。いずれも四十代、野心と活力のみなぎる年代である。三人の話し合いは学会の設立だけに止まらない。実際に自分たちの手で宇宙基地を建設する計画にまで広がる。

まず税負担の少ない海外に投資会社を設立し、国家的に資金集めを始める。企業化計画の会社を設立させ、具体的な計画を煮詰める。半導体や医薬品の生産拠点になる宇宙工場や宇宙での大規模な太陽発電など、二〇〇〇年前後には計画に乗る事業になるはずだ。専門分野が全く異なる三人が目指す共通のゴールは、日本の心の底に眠る超巨大事業への強い意欲を呼び覚ますことである。高度先端技術や造船、建築などの、重厚長大型の技術が日本には豊富にある。これを統合して、



▽63

宇宙や海洋に二十一世紀の人類の社会基盤、産業基盤となる巨大プロジェクトを仕掛けていかなければならない(中川)。

マクロの発想を

五十九年十一月一日(中川、長友、月尾) 東京・国立の一橋大学で開かれた多摩川・サウス・シンポジウムに、参加。都立工科短大長の渡辺茂ら、多摩川を代表のシリコン・バレーを上げる一大ハイテク(高度先端技術)地

帯に改造していく再開発プランを討議。十二月六日(中川、長友、月尾) 東京・日比谷の帝国ホテルで米国マクロエンジニアリング協会長のジョージ・コズツキを迎え、「日本マクロエンジニアリング協会」を開く。日本側は和達清夫、埼玉大元学長、伏見康治(日本学術会議前会長)、斎藤四郎(新日本製鉄会長)、堀江鉄弥(日本長期信用銀行専務、諸橋晋六(三菱商事専務)ら。



巨大事業の動機を説く左から長友、中川、月尾の三氏。日本マクロエンジニアリング学会の設立は4月1日と決まった

巨大事業構想力の芽生え

仕掛ける少壮の三学者

会。大阪市都市として初めてマクロ協会に加盟したことに對する答。十二月十日(長友、東京・日本大学の日本学術会議、堂で開かれた学問力学研究会で講演。



長友の士認大

職業は工学系の学者、技術者、百人。これまで学問現象をミクロに追いかけて、分析してきた。しかし、この手法には限界がある。人の一生を越えるような巨大事業を進めていく新時代に、巨大なもの、最初から巨視的にとらえる新しい学問手法の確立が必要だ(長友)。

ロケットがイタリアで浮上。日本の筑波都市の経験を開かせてほしい。との要請。参加を約束する返事を打つ。米英仏からも専門家が出席するらしい。

二月四日(中川) 東京・大手町の住友金属工業で定例のマクロエンジニアリング研究会、公認会計士の大蔵幸

士月十日(中川、長友、月尾) 公認会計士の大蔵幸雄を加えて日本マクロエンジニアリング学会の設立準備会。『巨大プロジェクトが人類の発展に必要だと考えている幅広い民間領域の専門家を結集すべきだ』(長友)。

「実力は十分」 欧米の進んだ技術をまねることは得意でも、地球規模のスケールの大きな事業を構想するのは日本の最も苦しい分野と言われている。しかし、日本の産業界の生産力は国内市場はもちろへ、国際市場の規模を上回る過剰能力を持ち始めた。宇宙や海洋、砂漠に新しいプロジェクトを求めて巨大事業を自ら構想していかなければ二十一世紀の日本は生き残れない(中川)という危機意識から、日本の中に巨大事業の構想力が芽生え始めたと言えよう。「その実力が備わった」と中川は強調する。

三月三日、日本製小型宇宙基地の設計図をかねに入、長友は成田空港を飛び立った。NASA 宇宙航空局に、この基地の打ち上げを打診するのが目的だ。二十一世紀初めには日本人を言へる宇宙基地に送り込むようにしたいとね。長友のかげんは動いた。日本製巨大プロジェクトの夢が詰まっている。四月一日、新学会のスタートには、長友は大きな成果を持つ帰ってくるだろう(特別取材班)

メディア・リンクス

この企画は日経グループのメディアミックス(異種媒体による統一テーマの同時キャンペーン)第四弾です。本紙は毎週月、火、水曜日付1面、日本経済新聞は毎週日曜日付1面で連載

しています。同時にテレビ東京、テレビ大阪、テレビ愛知が毎週日曜日午後6時半から30分番組で放映中です。またTHE JAPAN ECONOMIC JOURNAL(英文日経)、日経ビジネス、ラジオたんぱも特集記事、番組を報道、さらに全国各地で「日経ハイテク・セミナー」を開催中です。